

じゃんけんについて

中 3-C-26 田 中 美 帆

目 次

はじめに

第 1 章 じゃんけんの歴史

第 1 節 じゃんけんの元「拳あそび」

第 2 節 現代の「じゃんけん」

第 3 節 「最初はグー」が生まれた理由

第 2 章 じゃんけんで最初に何を出す人が多いのか

第 1 節 最初にグーを出す人は多いのか

第 2 節 実際にじゃんけんのデータを集めてみた

第 3 節 「最初はチョキ」と「最初はパー」

第 3 章 もし「最初にグーを出す人が多い」と知っていたら

第 1 節 片方が人が知っていた場合

第 2 節 両方が人が知っていた場合

おわりに

参考文献

はじめに

私たちは生活の中で、順番を決めるときなどの様々な場面でじゃんけんをします。皆さんもじゃんけんが相手は何を出すのか分かればいいのにと考えたことはないでしょうか。そこで、私はじゃんけんの確率は単に三分の一ではないと考え、じゃんけんが何を出す確率が高いのか、また何を出す確率が高いのかを知っていると、勝つ確率は変わってくるのかなどについて、調査しました。

そして、この身近に使っている「じゃんけん」はどのようにして今のような形になったのか、「じゃんけん」にはどのような歴史があるのかについて調べ、まとめました。

第1章 じゃんけんの歴史

第1節 じゃんけんの元「拳あそび」

そもそもじゃんけんはいつ広まったのだろうか。古くから日本では、普段私たちが使っているじゃんけんには似た、拳あそびが行われていた。じゃんけんの起源である拳あそびは、平安時代に中国から伝わったとされている。当時の日本では「虫拳」と呼ばれていた。日本へ「虫拳」が伝来した正確な時期は分かっていないが、江戸時代初期に日本へ伝わったとされている「本拳」よりも早くに伝わったとみられている。本拳は2人が向かい合い、それぞれが片手の指で数を示すと同時に2人が示した数の合計を予測し、その数をお互い言いあい、数の合計を言い当てた方が勝つというものである。よって「虫拳」が日本で一番古い拳あそびとされている。「虫拳」の手の形は写真1、「本拳」の手の形は写真2の通りだ。

写真 1

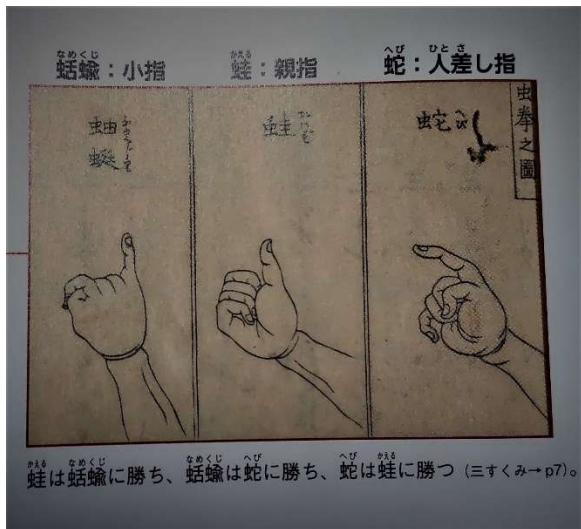
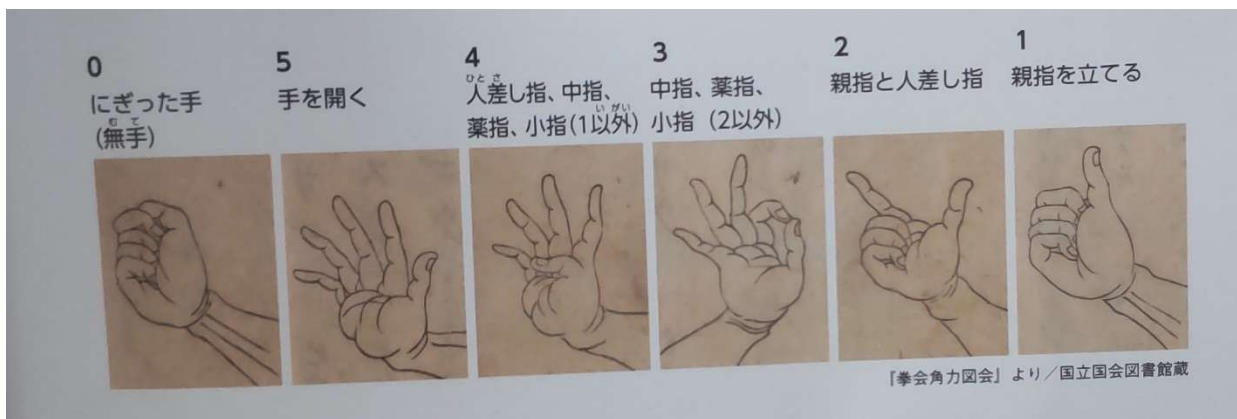


写真 2



虫拳は江戸時代の子供たちのあそびになっていた。しかし、虫拳はどの指が蛙でどの指が蛇なのかが分かりにくく、また勝敗も分かりにくい。そのため、次第に虫拳は石拳へと変わっていったとされている。

第 2 節 現代の「じゃんけん」

現代の「じゃんけん」は、江戸時代中期から後期にかけて虫拳から変化した石拳だと考えられている。石拳は手を握った形(グー)が石を表していたため、石拳と呼ばれた。石拳の 3 つの手の形は本拳の 6 つの中から 1、3、4 番の手の形が省かれ、0、2、5 番の手の形によってできたものだ(写真 2 より)。確かに「本拳」は手の形の種類が多く覚えるだけでも一苦労するのに対し、「石拳」は分かりやすい上に数も少ないので覚えやすい。よって、「本拳」から手の形の種類が省かれ「石拳」に変化したのだろう。

石拳は写真2の0が「石」、つまり現代で言う「グー」、2が「鋏(はさみ)」、現代で言う「チョキ」、5が「紙」、現代で言う「パー」を意味している。鋏はもともと写真2の2番のように親指と人差し指で表したものであったが、日本全国へ広まっていくうちに現代の「チョキ」の形である、人差し指と中指で表すものになったという。

「じゃんけん」の語源についての説は主に2つある。1つは、「石拳」が昔は「じゃくけん」と発音されていたため、それが訛って「じゃんけん」と呼ばれるようになった説である。もう1つは、2人で遊び、両方の拳を使うため「両拳(りゃんけん)」と呼ばれ、しだいに「じゃんけん」に変化していったとされている説だ。他にもチョキを示す「鋏拳(ジャーチュアン)」から変化したという説などたくさんの説があるが定かではない。

第3節 「最初はグー」が生まれた理由

今では方言の違いがあっても、日本全国どこでもじゃんけんを始めるときに「最初はグー」と言う人がほとんどである。しかし、お年寄りの中には「最初はグー」と言わない方もいる。なぜなら「最初はグー」が全国広まったのは1960年代後半だからだ。「最初はグー」と言うようになってからは、「後出し」やじゃんけんの手を出す「ズレ」を防げるようになった。確かに「最初はグー」と言わずにいきなり「じゃんけんぽん」と言って出すと手を出すタイミングも分かりにくい上に、何より違和感がある。そんな「最初はグー」を全国へ広めたのが、志村けんさんだ。

志村さんがザ・ドリフターズのメンバーとして出演されていた「8時だヨ！全員集合」という番組がある。その番組の中で、志村さんが「最初はグー」と言ってからじゃんけんを始めたことにより、全国に「最初はグー」が広まっていったという。確かに、「最初はグー」をはやらせたのは志村さんだが、志村さんが作ったというのは間違いかもしれない。実際には仲本工事さんと志村けんさんがコントの中で「最初はグー」をやり始め、それが広まった。またネット上では以下のように言われていたりする。志村さんはよく、「8時だヨ！全員集合」のメンバーやスタッフの方たちと飲みに行かれていたそう。その時の支払いを決める際に、じゃんけんで決めることになった。しかし、みんな酔っぱらっているのだから、なかなか「グー」「チョキ」「パー」のタイミングが合わない。そこで志村さんが「最初はグーでそろえましょう！」と言ったところ、タイミングが合ったそう。そこから「最初はグー」が誕生した。

じゃんけんの歴史は古く、昔から身近に使われてきたが、現代で私たちが慣れ親しんできた「じゃんけん」ができたのは意外にも最近のことなのだ。

第2章 じゃんけんでは最初に何を出す人が多いのか

第1節 最初にグーを出す人は多いのか

「グー」「チョキ」「パー」の中では「グー」が一番出しやすいとされている。それは、じゃんけんでは「グー」は握った手、「チョキ」は人差し指と中指を出した手、「パー」は開いた手のうちとっさに出しやすいのが「グー」だからだ。この三つの中で一番とっさに出しにくいのが、「チョキ」であることは誰もが納得するだろう。では「グー」と「パー」ではどうだろう。「最初はグー」と「最初はパー」でお互いにつき合わせたとき、「最初はグー」の方は緊張感がある。アニメなどで緊張した場面の時に、手を握りしめている描写がされているように、人は緊張すると手を「グー」に握りしめる。じゃんけんは勝負事の一つであるので、やはり緊張してとっさに「グー」を出してしまうのだ。

「じゃんけん博士」という異名を持っているとされる桜美林大学の芳沢光雄教授は、のべ725人に10回から20回のじゃんけんをしてもらい、11,567回ものじゃんけんの勝負データを集めた。その結果、「グー」を出す確率が35.0%で一番高く、次が「パー」で、33.3%。「チョキ」は、31.7%だった。「パー」は、全体の3分の1だったが、「グー」と「チョキ」の差は、3.3ポイントある。これをわずかな差と見るか、大きな違いと見るかは考えどころである。引用文献では、3.3ポイントを差と見るかの判断はされていない。だが、この「じゃんけん博士」の調査のデータでは、確かに「グー」を出す人の確率が一番高いことがわかる。

また、あるテレビ局では、AKB48 じゃんけん大会に関する番組制作に際し、次の大会での勝敗を予想するために、多くのスタッフが過去の大会の録画を見て、「グー」「チョキ」「パー」の出方を徹底的に調べた。その結果でもグーを出す割合が高かったという。(2012年7月、稲葉茂勝氏のところに取材に来た日本テレビのディレクターから聞いた番組制作の裏情報)

(図) 2014年9月17日に開催された大会のトーナメント表



第2節 実際にじゃんけんのデータを集めてみた。

前述の通り、最初にグーを出す人の確率が高いことは分かったが、実際にじゃんけんのデータを取ってみると本当にそのような確率になるのか、気になったため、日常生活において使っている普通のじゃんけんのデータを集めた。

(表1)

	実際に取ったデータ		じゃんけん博士のデータ	
	人数	確率	人数	確率
グー	44人	34.34%		35.00%
チョキ	43人	33.59%		31.70%
パー	41人	32.03%		33.30%

そこで実際に取ったデータが上の表1である。さすがにじゃんけん博士のデータほどデータを集めることはできなかったが、128人にじゃんけんをしてもらったところ、グーが44人で34.34%、チョキが43人で33.59%、パーが41人で32.03%という結果になった。表1で実際に取ったデータとじゃんけん博士

のデータを比べてみても、それぞれ出す手の割合には違いがあるが、確かにグーが3つの中で一番出す確率が高いことがわかった。しかし、これは最も一般的なじゃんけんである「最初はグー」の時の結果である。では「最初はチョキ」、「最初はパー」の時ではそれぞれ「最初はグー」の時の割合から変化するのだろうか。

第3節 「最初はチョキ」と「最初はパー」

私はここである仮説を立てた。第2節より、「最初はグー」と言ってグーを出した時にはグーを出す人の割合が一番高かったが、「最初はチョキ」と言ってチョキを出した時と「最初はパー」と言ってパーを出した時では、最初に何を出すかという割合が変わってくるという仮説だ。私は「最初はチョキ」と言ってチョキを出した場合はチョキ、「最初はパー」と言ってパーを出した場合パーを最初に出す人の割合が一番高いと考えている。確かに、前述したように人はグーを出しやすいことが分かったので、「最初はチョキ」であっても「パー」であっても割合は変わらずに、最初にグーを出す人が多いという考えもあるだろう。しかし、それは「最初はグー」と言ってグーを出した場合のじゃんけんデータを取った結果である。

「最初はチョキ」、「最初はパー」の時ではその割合が変化するのかを調べ、比較し、表にまとめた。その表が下の表2である。

(表2)

	最初はグー		最初はチョキ		最初はパー	
	人数	確率	人数	確率	人数	確率
グー	44人	34.34%	5人	27.78%	6人	31.56%
チョキ	43人	33.59%	2人	11.11%	8人	42.11%
パー	41人	32.03%	11人	61.11%	5人	26.32%

表2より「最初はグー」の時と「最初はパー」の時での何を出す人の確率はそれぞれあまり変わらなかったが、「最初はチョキ」の時では「パー」を出す人の確率がほかの二つを出す人に比べて、はるかに高かった。また、「最初はチョキ」のじゃんけんをした中には「最初はチョキだとチョキは最初に出しにくい。しかし、パーを最初に出すのは出しやすい。」という人が何人かいた。

では「じゃんけんが最初にグーを出す人が多い」ということを知っていたら、じゃんけんが勝つ確率は高くなるのだろうか。

第3章 もし「最初にグーを出す人が多い」と知っていたら

第1節 片方の人知っていた場合

まず、1人だけが知っている場合を考えてみよう。まず、普通にじゃんけんを2回してもらおう。そして、片方の人だけに「じゃんけんが最初にグーを出す人が多い」ということを伝え、伝えた後では伝える前よりも勝つ確率は上がるのかを比較した。伝えた後は、3回じゃんけんをしてもらった。結果は以下の通りである。

(結果1)

	伝える前	伝えた後
Aさん	2勝0敗	2勝1敗
Bさん	1勝1敗	1勝2敗
Cさん	0勝2敗	2勝1敗
Dさん	0勝2敗	2勝1敗
Eさん	1勝1敗	3勝0敗
Fさん	1勝1敗	1勝2敗

結果を見ると、伝える前と伝えた後で勝つ確率が上がったのがCさん、Dさん、Eさんの3人で、伝える前と伝えた後で勝つ確率が下がってしまったのがAさん、Bさん、Fさんの3人となり、どちらも人数は同じになった。よって、じゃんけんをするときに片方の人に「じゃんけんが最初にグーを出す人が多い」ということを伝えても勝つ確率が上がるとは言い切れない。もしかすると急にそのようなことを言われても、瞬時に相手の出す手を考え、予測できず、なんとなく手を出してしまったのかもしれない。

では今度はじゃんけんをする両方の人に「じゃんけんが最初にグーを出す人

が多い」ということを伝えると、伝える前と伝えた後で勝つ確率はどうなるのだろうか。やはり、どちらも知っているとなると、お互い勝つ確率は変わらないのだろうか。

第2節 両方の人を知っていた場合

まず、じゃんけんを普通にしてもらおう。次に、両方の人に「じゃんけんで最初にグーを出す人が多い」ということを伝え、相手が出す手を読む時間として10秒ほど時間を設ける。そして、再びじゃんけんをしてもらい、伝える前と伝えた後で勝つ確率がどうなるのかを比較した。じゃんけんをしてもらう回数は、第3章の第1節と同じように伝える前が2回、伝えた後は3回じゃんけんをしてもらった。結果は以下のとおりである。

(結果2)

	伝える前	伝えた後		伝える前	伝えた後
Aさん	0勝2敗	1勝2敗	Aさんの相手	2勝0敗	2勝1敗
Bさん	2勝0敗	1勝2敗	Bさんの相手	0勝2敗	2勝1敗
Cさん	0勝2敗	2勝1敗	Cさんの相手	2勝0敗	1勝2敗
Dさん	1勝1敗	2勝1敗	Dさんの相手	1勝1敗	1勝2敗
Eさん	1勝1敗	1勝2敗	Eさんの相手	1勝1敗	2勝1敗
Fさん	0勝2敗	2勝1敗	Fさんの相手	2勝0敗	1勝2敗

結果より伝える前では0勝2敗の人であっても、伝えた後では1勝はしていたり、一方で伝える前で2勝0敗の人であっても、伝えた後は1敗していたりして3回連続で勝つという人はいなかった。よって、両方の人に「じゃんけんで最初にグーを出す人が多い」ということを伝えると、両方の人相手が相手の出す手を予測し、考えるため、伝えた後の勝つ回数で大きな差は出ないのである。

おわりに

じゃんけんについての歴史や様々な確率について見てきました。そこでまず分かったことは、じゃんけんはとても奥が深いということです。今世界中でじゃんけんは身近に用いられており、私たちが生活の中で見るときはないほど重宝されています。皆さんは物事がなかなか決まらないとき、順番を決めるとき、勝ち負けを決めるとき、さらにはこれからの生活が関わってくるようなときにまで、様々な場面で何気なくじゃんけんを使っていますよね。ですが、こんなにも様々な事柄が道具も何もいらず、自分の手さえあればでき、しかも時間もかからず一発で決めることができるなんて、じゃんけんとはなんと便利で素晴らしいものなのかと思いませんか。私は現代の「じゃんけん」になるまでの歴史を調べ、まとめていく中でじゃんけんができたのはこんなにも昔で、こんなにも形を変えてきたと知り、形は違うとはいえど、たくさんの人々がじゃんけんを重宝してきたのだと感じました。また、その人々が改良を重ね、形を変えながら、現代にじゃんけんを伝えてきてくれたことに感謝しなければなりません。私は「じゃんけんの何を出す確率が高いのか」や、「じゃんけんで最初にグーを出す人が多い」と伝えると勝つ確率は変化するのかについて調査してきました。しかし、まだまだたくさん確率がじゃんけんにはあります。その確率の中に、多くの人知っているであろう「大阪じゃんけん」や「後出しじゃんけん」、「心理戦じゃんけん」なども含めると限りがありません。また、世間では「じゃんけんには必勝法がある」といわれています。私も「必勝法」はあると考えます。人はそれぞれ個性があり、同じ人などいませんが、みんな同じ「人」です。何も考えない、つまり本能で動くとなるとみんな同じで、じゃんけんでも手の出し方は同じようになると考えます。ですがこれは、私たちが身近に使っている「普通のじゃんけん」の話です。それほど壮大な話になってくるのです。

皆さんもじゃんけんをするとき、じゃんけんはいかに便利で私たちが重宝しているか、じゃんけんの素晴らしさについて考え、少しでも感じてほしいです。

参考文献

稲葉茂勝 『じゃんけん学』 今人舎

「最初はグー」を最初に始めたのは「全員集合！」のアノ人

【鈴木杏樹のいってらっしゃい】 <https://news.1242.com/article/99307>